2016年9月1日

半導体・エレクトロニクス技術/産業の近未来を考える

一身独立して 一国独立す

群馬大学 小林春夫

ずいぶん前のことになるが、国の機関・大学・企業関係者が集まり日本の将来の科学技術（電子情報通信分野）の方向性を議論する小さな会合に参加させてもらったことがある。そこで国の機関の方（多分メーカーご出身）が言われた次の言葉が今でも記憶に残っている。

「国・行政は何もしないほうが良いということはしばしばある。」

自由経済を記述するテキスト等にはよく出てくる内容であるが、実際の行政を議論する審議会で言われたことに少し驚いた。やはり見識がある人はいるところにはいるのだなと思った。それまで見た行政の人たちに対しては別の印象をもっていたからである。その後の何年かの自分の見分・経験の範囲では、この考え方はかなり正しいと認識している。

米国に出張した際に、海岸沿いに次の注意書き看板を見る。

Don't feed birds. Keep them wild. （海鳥に餌をやるな。野生のままにしておけ。）

野生動物は餌付けすると野生では生きていけないと再認識した。生態系を壊すようなことに対しては「動かざること山の如し」で少し離れていたほうが良いと思う。

福沢諭吉の考え方が今強く求められていると思う。

独立自尊、国を支えて国に頼らず。
独立の気力なき者は必ず人に依頼す。
人に依頼する者は必ず人を恐る。
人を恐るる者は必ず人にへつらうものなり。

戦後の経営者 盛田昭夫、本田宗一郎、松下幸之助にもその気概を感じる。